

実際にアイエスイーの商品で獣害対策を行っているお客様の、獣害対策の様子をご紹介します。

No. 01

兵庫県篠山市

ICTによる 獣害対策の取り組み



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所（さともん）

代表理事

鈴木 克哉 氏



初めての捕獲は名古屋市内から。
スマホを見ながらハイタッチしました!

『獣害から地域を守る』農村 × 都市連携プロジェクトにぴったりなシステムが「クラウドまるみえホカクン」でした。

担い手が不足する農村の獣害対策を都市住民とともに支援する活動を行っている鈴木代表が、有害なシカを捕獲するために選んだのが「クラウドまるみえホカクン」。5m 四方の囲いには監視カメラと感知器がついており、シカがおりに入るとスマートフォンのアプリで知らせてくれるシステムになっているため、都市と連携した獣害対策で農村の振興を目指すさともんの方針にぴったりのシステムと言える。

どこにいても ICT で檻の中を確認できることが最大の強み

「やっぱりプッシュ通知がいいですね。おりに入ったのがどこにいてもわかるから。」という鈴木さん。さともんの活動はイベント企画や講師、調査・コンサルティング等、幅広く、そのため出張も多い。初めて捕獲に成功したのは名古屋市内で仕事を終えた夜だった。これまでもシカが何度かおりに入っていたが1頭だけのことが多く、この日ようやく2頭入っていることがアプリの映像で確認できたので、慌てて捕獲ボタンを押し見事捕獲に成功。一緒にいた仲間とハイタッチして喜んだ。篠山から遠く離れた都市からの捕獲に、今後の獣害対策への手応えを感じた。



兵庫県篠山市に設置してある「クラウドまるみえホカクン」の様子。周辺の農地には、しっかりと電気柵が張り巡らされている。

この取組は「革新的技術・緊急展開事業の地域戦略プロジェクト（ICTを用いた総合的技術による、農と林が連動した持続的獣害対策体系の確立）」にて研究されています。

おりの設置は 2016 年 6 月。初捕獲までにはいくつか工夫を凝らし、うまくシカを誘引できるよう改善していった。シカの警戒を和らげるため、途中でおりの一面を取り払ってコの字型に変更した。餌は地域の特産品でシカが好んで食べる黒大豆のくず豆を混ぜるなどした。

実際に行動観察しながら捕獲できるので、工夫できるし、モチベーションが保ちやすいですね。

「画面を見ながらの対策は、地域のみなさんのモチベーションが保ちやすく活性化につながる。」画面を見ながらチャットができるのも、このシステムの魅力のひとつ。今捕獲するかどうか、誰が捕獲ボタンを押すのか？などを相談しながら捕獲できる。「神戸など離れたところにおいても誘引や捕獲の様子がわかるので、都市の人にも現場の大変さがわかっていただける。」と話す鈴木さん。撮影した動画をもとに、獣の習性や行動パターンを把握できることも、さらに捕獲効率を上げる要因のひとつだ。

最後に、これから獣害対策を行う方へ、アドバイスをいただいた。「捕獲できるまでの期間は、効率よく手順を踏むことで縮めることは可能だ」とした上で、「一番大切なことは、捕獲だけに頼らず防護柵の設置や維持管理など他の対策と組み合わせて実施すること」と話してくれた。



地域で行われる獣害対策勉強会。録画した映像をもとに、獣の種類や行動が把握できる。



スマートフォンのアプリ画面。どこにいても「捕獲」ボタンひとつで捕獲が可能。